



僕の後輩の  
マシユがキモオタに  
NTRれて孕まされる話

基本CG16枚(立ち絵2枚)  
差分+本文96枚  
テキストなし96枚  
合計192枚

カルデア職員として  
催眠コードを手に入れた  
キモオタ研究員



催眠コードを使い  
自分をマシユのマスターと  
思い込ませる計画を実行した

「用事があると聞いて来たのですが……  
あなたは……？」

「いやあお忙しいところスイマセン  
私コマンドコードの研究の専門者として  
実は、折り入ってマシユさんに  
見て頂きたいものがあるんです」

見て頂きたいもの……？



「……」れなんですがね」

「……？」

「……」



「……」

「……」



「ムビシオオオオ」

ア  
ア  
ア



「あれ？先輩……どうしてニジニジ？」

「(ど)っちら効いてるようだな……」

「マッシュ、今日呼び出したのは他でもない  
先日の返事のことなんだ」

「先輩……」

「ボクもマッシュの事が好きだ  
……愛してる」



「愛し合う二人がすることは……  
分かってるよね？」

「で……でも……突然すぎて……」

「いいからボクの言うとおりにするんだ……」







「ああ……マジユのフエラチオは最高だな」

「ありがとっ……いげっ……ますっ……」

わっ

わっ

わっ

「頬もっとなすぼめて、舌を使うんだ」



「ああ……ごんぽ……」

ごんぽ

ごんぽ

ごんぽ

ごんぽ

「(太くって……嬉しい……先輩のチンポ)」



「(なかなか上手いな……  
アイツのチンポと思い込んで熱心にしてやぶってやがるw)」

ヒートクランディング

ニャーニャーニャー

「もうたまらん……  
イクツ……！口で受け止める！」



「「んな……濃いザーメン……たっぷん……」

キッス

とろろ……

「ふっ……マシユのフェラチオ、愛が籠ってて最高だった……  
今度はパイズリしてほしいな」

「先輩……おっぱいが好きなんです……」

「ああ……マジュ……おっぱいも格別だな

「先輩……いっぱい私の胸で気持ちよくなってください……」

キュン

オロシ





「柔らかい感触がたまんねえ……」

「んっ……んっ……」

「もっと胸を押し付けて……  
ボクを気持ちよくさせるんだ」





「じゅんじゅん……でこぽんか……?」

「いっぞ……」

乳圧がチンポをギュツギュと締め付けてくる……」

グ  
リ  
リ  
ッ

「んっ……んぶっ……」

「あー……いきそうだった……イクぞー!」

ポ  
ッ



「ザーメンを乳まんこで受け止めるー!」

アハハハ

アハハハ

アハハハ

「んっ!」



「マンコの乳マンコ……気持ちよすぎて腰が抜けるかと思ったぞ」

「先輩……私もう……」

と  
は  
い  
い  
ま  
う

お  
お  
お

「わかってるって、次はオマンコだろ？」



「挿れるぞ……」

イッパツ

「あ……き……な……ら……」

アッ





「ありが……ひゃっ！」

「いきなりっ……動いたら……駄目ですよお……」

ズニャッ

ズニャッ

「ああん」

キュンッ

「ボクはマシユちゃんの彼氏だよ？」  
「彼氏のやることには黙って従うもんだよ」



「マシント...おっぴんぐ...」

「私も...いつちやう...」

ニョ...

ニョ!

「中にたっぷり出すからな...」

おっぴんぐ...

「うっぴんぐ...おっぴんぐ...」



「おおほおおおおおおー子宮で濃厚ザーメン受け止めるっー」

カッパカッパカッパ

カッパカッパカッパ



カッパカッパカッパ

「イクウウウウウウウウウッ♡」

カッ

カッ





「赤ちゃん……できちやっただら……」

アハハハ

アハハ

キリッ

「ああ……  
ボクが責任もって育てるよ」

「先輩……」



「まだまだヤリたりないんだ…マジンユ」

「先輩の好きなように…しててください…」

キュン

キュン  
キュン  
キュン

「…おっ、おっ、おっ…」

「あん♡」

「念入りに中出ししないと  
子供は作れないからな」

じこま

じこま

♡くちゅ♡  
♡くちゅ♡

「先輩……はやく……おチンポください……」

「ボクのチンポの感想はどうだい？」

アッ

「太くて……遅しくて……  
気持ちいいです……」

ちゅっ

ちゅっ

「もっと深いところを突いてやるか」



「あん……あんっ……  
そこお……だめえ」

「JJがっ……JJがらっのかー」

「またいつちやう……  
いつちやいます……」

ちゅっ

グッ

ちゅっ

ヌッ

「ボクももうイキそうだ……  
イクぞマッシュー！」



「イクッ！」

ぐちゃっ

ぐちゃ  
ぐちゃ

ちゅー  
ちゅー

「んっ…ああん…」



「んちゅ…ちゅ…」

ちゅっ

ちゅっ

「キスしながら繋がっていると  
最高に愛し合ってる感じがするね？」

ズツ

ズツ



「はい……私達愛し合ってますから……」

ちゅっ♡

「先輩……」

「ああ……可愛ら〜ん♡」

ぽん♡

ぽん♡



「先輩のオチンポ  
ずっと硬くてギンギン……♡」

ちゅぽ

ちゅぽ

「マッシュのオマッコもギュッギュッと  
締め付けが続いて、最高だぞ」

「あん♡」

ちゅぽ

ちゅぽ

「んちゅ…ぢゅ…」

れろっ

れろっ

「また出そうだ…  
今度も子宮の奥で受け止めてね」

「はい…先輩のザーメンはマシユのものですから♡」

IP

IP

IP

IP



「おおおお！出るっ！！しっかり孕め！」

おちゅ

「あんっ……イクッ」♡



「ハア…ハア…」

ちゅっ♡

「そろそろラブラブHも飽きてきたな…」  
「次は趣向を変えて、催眠解除してみるか…」

んん

んん

んん

「ハァ……ハァ……」

「こんなHな事するのは先輩だけなんですからね♡」

キマッ

オロオロ

ハァ

「ああ……ボクのママもね♡」

「あん♡」



「何度中出ししても締め付けがたまらんっ……」

くっつき

おん、

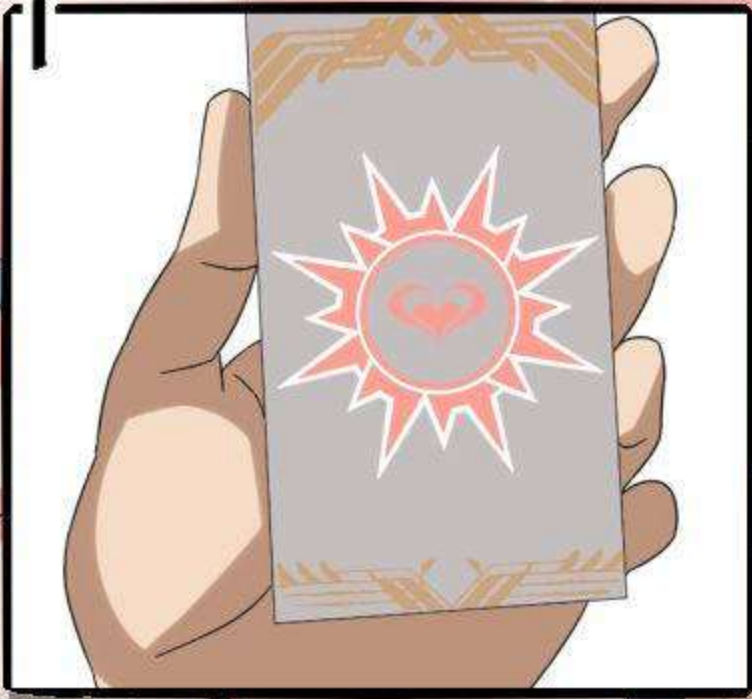
「あん……あっ……♡」  
「気持ちいい……」  
「激しく突いて下をこすり♡」

おん、



「(そろそろ試してみるか……)」

「あん……あんっ……♡」



「催眠解除！」

ズッ  
ッ

ズッ  
ッ



「え……？」「これは……？」

「……？」「……？」

「イヤッ……誰ですかあなたは……やめっ」



おっぱい

おっぱい

「うほおおおおおっ！妊娠しろっ！」

「イヤッ！抜いてっ！」

ぐわっ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ



「な……何で「こんな」ジュジュ……」

「ちっきままでボクとマン「ちっちゃん」は  
愛し合ってたんだよ」

「嘘……「こんな」の嘘です……」

「あ……」

「あ……」



「こんな事をして良いと思ってるんですか!？」

おっぱい  
お尻

「良いと思ってるよー  
コードを使えば  
また忘れるだろうしw」

「……ツ……」

おっぱい



「ぬ……抜いてくたさう……」



ズ  
ン  
ズ  
ン

「ちっきままであんなに  
愛し合ったのに寂しいねえ」

「な……何をっ」

ズ  
ン



「巨んな…巨んなの…」

「最低です…!!」

「嫌々やるのも最高だな…  
どう? ボクのチンポは?」

ムムム

ムムム

巨根

巨根

巨根



「マン」は「んな」締め付けてるのになあ?」

「くっっっはやく止めなさい……!!!」

グロコイ

きゅっ

きゅっ

ズッ

ズッ

ズッ

「マッシュちゃんが  
ボクの子供を産むまでやめませえん」

「絶対イヤです……!!!」



「嫌だろぅが何だろぅが孕むんだよ!」

レレレレレ

「イヤッ!!絶対イヤッ……!!!」





「たっぷり出たあ〜」

あーん…ん…♡♡♡

あーん…ん…♡♡♡

「これでマジンちゃんも受精したんじゃないかあ？w」

「嘘…これ嘘です…」

先輩以外の赤ちゃんなんて…嫌あ…」



数か月後

「申出しまくったおかげで  
マシユはボクの子を身籠り、  
ボテ腹となった」



「はやく……済ませてください……」

アッアッ

アッアッ

「今挿れるからなあマシク……」

「んっ……」

アッ

アッ



「痛ッ! ああッ!」

ズ  
ズ  
ズ

ゲ  
ゲ

「赤ちゃんがいるからっ……強くしないでっ!」



「おっといけないいけない……お腹の中の赤ちゃんがいるんだった」

「ハア……ハア……」

アハハ

ムムム

ぬちゅ

ぬちゅ

「そろそろパパのミルクの時間でちゅよ〜」



「射精るッ!!」

「んっ……」

コ  
ッ  
ッ

コ  
ッ  
ッ

ア  
ッ  
ッ  
ッ

ッ  
ッ  
ッ



「パパのミルクもたっぷり飲んでいい子に育つんでちゅよママ」

ポロ

「(こんな身体になって...  
まだセックスするなんて...)」

ポロ

とろ...

「今度はママのオッパイの味見といきましょようかねえ」







「あっ……あん♡」

グズグズ♡

「マジホのママミルク  
最高に美味しいなあ♪」

「あっ……そんなに吸わないで……」

グズグズ

グズグズ

グズグズ♡

グズグズ♡



「あん! あんっ!」

「マシユは母乳吸われながら  
チンポ挿れられるのが好きなのか!!  
オラツ!!」

ズン  
♡

ニヤニヤ

ニヤニヤ

アゴ

アゴ



「あっ……駄目！」

「妊娠マン」気持ちいいわあ〜」

「あ、あっ!!強くないでー!」



「おお〜イクツッ!イクゾ〜!」

「あん!あ〜っ!」

♡  
♡  
♡  
♡  
♡

ビ  
ビ  
ビ  
ビ  
ビ

ビ  
ビ  
ビ  
ビ  
ビ

ビ  
ビ  
ビ  
ビ  
ビ



「「めんよマシユ……赤ちゃんは大丈夫だった？」

「はい……主人様……優しいんですね……」

「子供に大事な事があつたらいけないしね  
あ、そういうえば先輩にマシユが妊娠したってこと報告してないよな？」

ポルポルン

「え……？」

「ビデオでボクたちの愛を  
伝えたいと思ってさ」

レレレ

レレレ



ある日、消えたマシユの行方も分からずに

呆然と居た僕のところにも一通のメールが届いた

中には、男と妊娠したマシユの愛の営みが記録されていた



「カメラをもちよってカメラを向いて」

「……ですか？」

「……」

「……」



「ほら、メッセージメッセージ」

「先輩……見てますか？」

「私、ご主人様とエッチして  
妊娠しちゃいました♡」





「お腹の中の子が「こんなに大きくなっても……あんっ♡」

「フウー！フウー！」

「♡主人様とエッチしてます♡」

あーん

あーん

あーん

あーん



「んっ！あんっ♡」

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



「ビデオで私達が愛し合っていると」  
「赤ちゃんが産まれるところまで撮影するから」

「しっかり見届けてくださいね…」

ニョロニョロ

ニョロニョロ

ニョロニョロ



「イェーイw 先輩見てる?」

「ハア……ハア……先輩……♡」

んん

んん

「マンチちゃん  
ピースピースw」

んん

んん

「なほっ…お」

「…センパイ♡見てくれますか?」

おっおっ

おっ

おっ  
おっ



「…マ…マ…」

「あ…あ…あ…♡♡♡あ…あ…あ…」

ア…ア…ア…

ア…ア…ア…



「先輩とは……エッチ……したことなかったけど♡  
こんなに気持ちいいことだったとは……知りませんでした……♡」

「ハア……ハア……」

ジュウ

ジュウ

ジュウ

ジュウ



「イクッ……イックウウ♡」



あ、あ、あ

「あ、あ、あ、あ、あ」

あ、あ、あ、あ、あ

あ、あ、あ、あ、あ



「まだまだご主人様と私の愛の営み、撮影してるから♡」

ハイハイ♡

「見てくださる♡」



「先輩、見てるー?」

「んっ……『主人様っ……♡』」

ひゅ

びゅ

「こんな格好  
マシユちゃんにさせたいとないだろー?」

んっ♡



「ひゃんっ！」

ひん、ひん、

「ああ〜妊婦マン」たまんねえ〜w」

ズ  
ン  
ン



「セ……ンパイ……見てますか？」

んんんん

「ゴ主人様のふっといチンポが  
私のオマンコに出し入れされると  
「J」……♡」

んんん

んんん

んんん





「イタッ」

「んっ」

「…んっ」



「こんないっぱい……♡  
私を孕ませられるのは主人様だけです……♡」

びくっ

「ああ〜っ……でもでも……  
この後輩デミマンロ、射精が止まらないわw」

とと  
はい♡



●REC

「先輩とは愛を結ぶ」とはできなかつたけど……」

ふんふん

「ボクとは結べちゃったもんねw」

ふん

「♡……んっ……♡」



●REC

「あんっー!」

アゲアゲ

「お腹の赤ちゃんに  
まだまだ栄養ミルクを注がないとねw」

あーん

「んっ…優しくしてくださいね…♡」



● REC

ぐんぐん...

「出産日が楽しみだなあ〜」

「あんっ...あっ...♡」

ぎゅっ♡

ぎゅっ♡

「気持ち...いい...♡」

「マッシュは「ニ」グリグリされるのが好きなんだよな」

● REC

「新しいお♡さんのお♡」

「すっかりボクのチンポの形に  
慣れてきた感じだなw」

「はい♡ご主人様のチンポ  
気持ちいいです……♡」

セクッ!

「そろそろっ……射精するぞっ」

おん

おん



「この調子じゃ2人目もすぐこでできそうだなw」

おっぱい  
お尻

「はい……♡」

「赤ん坊が産まれたら  
すぐ孕ませるからな？マジンユ」

「ご主人様の赤ちゃんなら……  
何人でも産みます……♡」

ビク

おっぱい  
お尻

「楽しみだ……♡♡♡」



マッシュと男の腹ボテセックスの次のビデオには

出産の様子が一部始終しっかりと写されていた

嫌悪感と興奮の混ざる感情を抱きつつ、僕は中身を見ることにした



「ママ、しっかりな」

ビュンビュン

「はい♡」

「ご主人様が一緒にいるから安心です♡」

「ああ」

「もうすぐボクたちの子供が産まれるんだ」

ブルブル



「んっ……んっ……」



「おっ……！頭が見えてきたぞー！」

「んっ……んっ……」

ひん、







「あっ！あっ！あっ！あっ！あっ！あ」

「おおっ

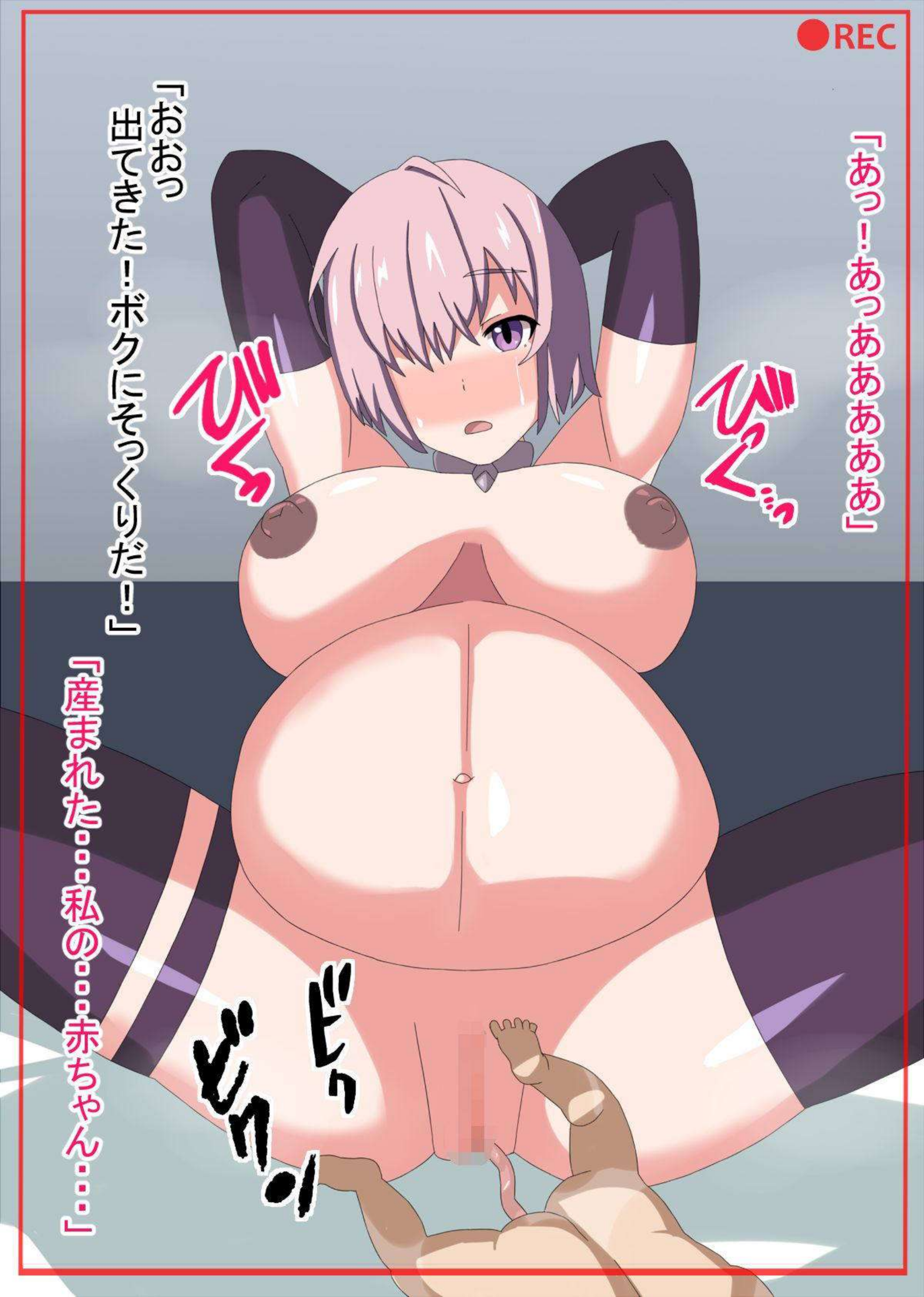
出てきた！ボクにそっくりだー！」

「産まれた……私の……赤ちゃん……」

びく

びく

びん  
びん



「……」

ビデオに映った最後の映像は

マッシュが産んだ赤ん坊を抱き男と立っている姿だった



「先輩……見てますか？」

「私は今ママとして、『主人様の子供を育ててるんですよ』

んんん

「先輩のと……るにはもう帰れないけど……」



「私は「」の子と「」主人様からたくさんさんの愛情を貰って幸せです♡」

「センパイとはもう一緒に戦えないし、暮らす「」とも出来ないですが」

「「」主人様と「」の子と過「」す幸せを噛みしめて日々過「」して「」います」

ゴウ  
ゴウ  
ゴウ



「先輩の事は好きだったけど、私は子供を産んで一人の母親としてご主人様を愛するようになって……」

「この幸せを好きだった先輩にも分けてあげたいと思ってビデオを送りました」

ふふふ



「もし寂しくなったら  
私とご主人様の子作り動画を見て  
オナニーして慰めてくださいね♡」

「次の子作りも  
動画で撮ろうね、マミ♡」

ビュン

「2人目もすぐに出来そうなので  
またビデオ送りますね」





「ではさようなら、私の好きだった先輩……」







ビキ



ア  
ニ  
メ











泣き止まない

泣き止まない

泣き止まない







ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ

ゴッ  
ゴッ  
ゴッ



ニヤァァァ

アッアッアッアッ











キレキレキレキレ...

アハハハ

アハハハ







グニッ  
グニッ

ぐに



ガッ

ガッ  
グッ

グッ



Off's...r...  
G.

k...k...k...





ゴッゴッ

ゴッゴッ

アッ!!



げんげん

げんげん

ぐんぐん





いいえ、いいえ、

いいえ

いいえ

いいえ、いいえ、いいえ、







チビチビ

チビチビ

チビチビ



下キニ  
下キニ

キニ  
キニ



くちゅくちゅ

にゅ

にゅ











ちゅっ

ちゅっ

ズッ

ズッ





ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡





わっ

わっ

ぱっ

ぱっ

ぱっ

ぱっ







好き

おっぱい

3x0



















足指

足指

乳首

尻

尻



ミソソ

きゅっ♡

きゅっ♡

ズッ

ズッ

ズッ







わあ  
わあ  
わあ

お魚...

お魚...  
お魚...  
お魚...





もも

もも

ちんちん

ちんちん



ゲッ

ゲッ

ゲッ



ジュル

ジュル

おっぱい

おっぱい



ゴッ  
グッ

ゴッ  
グッ

グッ  
グッ  
グッ

ゴッ  
グッ



ホッ

ホッ

ッ...









カッ♡

ニヤニヤ

ニヤニヤ

アッ

アッ





カッ  
カッ  
カッ  
♡

カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ



L P  
L P  
L P

L P  
L P  
L P

PO  
L P  
L P  
L P











アハハ

アハハ

アハハ

アハハ



ハハハ

ハハハ

キッ

キッ











Sika

Sika

Oto

Oto









アハハ

アハハ

アハハ



わんわん

わんわん  
わんわん

わんわん

わんわん



おっぱい  
おっぱい

おっぱい  
おっぱい

おっぱい  
おっぱい

おっぱい  
おっぱい







ひく

くちくちく

REC

アッ  
ッ

3!!  
3!!  
ん





REC

あはは

アハハ



REC

ズンズン...

まじっ♡

ぎゅっ♡



REC

アッ!

おん

おん



REC



ビクッ

グッ

グッ

REC



お尻を触る

お尻

お尻を触る





ニャーニャー



ビュッ







ムム

ムム...

ムム













44/3



ニヤ



